

「虫の目」「鳥の目」「魚の目」

食農リサーチ部長 北原克彦

1 3つの目

市場関係者の間では昔から言い伝えられているフレーズであるが、市場の流れを読むためには、「虫の目」「鳥の目」「魚の目」の3つの目を持つべきと言われている。

「虫の目」とは、市場の最前線で何が起きているのか、現場で細部を見つめる視点である。情報源に近づいて様々な角度から複眼で見る視点でもあり、現場での具体的な課題解決に用いられる。

近づきすぎると全体が見えなくなるので「鳥の目」は、大所高所から物事全体を俯瞰する視点である。業界・世界の大きな流れをつかみ、戦略を考えるのに用いられる。

そして、水面下の微妙な変化や動きを読み取る「魚の目」は、物事の底流を捉える視点である。トレンド・時代の流れを見極め、時代の先を読むために用いられる。

物事を見るには、この3つの目を同時に持つことと、3つのバランスが大切だと思う。どれかに偏ってはいけない。

2 畜産業の設備産業化

畜産は、採卵鶏・食鶏・養豚・肉用牛・酪

農と幅広く、国内産出額も3兆円と大きい。川下の食品業界を視野に入れると、裾野の広い産業分野でもある。

「虫の目」で畜産の生産現場を見ると、規模拡大と飼養頭数上位層への集中化が進んでいる。生産構造の変化に伴い、労働力確保が大きな課題となっている。そのほか、人工授精などの繁殖技術向上、防疫体制の構築、暑熱対策、糞尿処理等が現場で直面している問題である。

それらに対して、畜産物市況好調に伴う業績確保を背景に、生産者は労働力対策・生産性向上に向けて設備投資に踏み切ろうとしている。採卵鶏ではこれまでにウィンドレス鶏舎・ケージシステム・洗卵選別機などの設備が普及してきた。そのような設備産業化の波が、養豚や酪農へも押し寄せてきている。工業生産でのセンサー・画像処理技術の発達も、それを後押ししていると言えよう。

また、川下の食肉加工業界でも自動除骨機など自動化設備導入が進みつつある。体の大きな家畜は斉一性確保が難しいという壁を乗り越え、生産現場も食肉産業の川上部門として、円滑な流通に向けた規格化の流れが強ま

第1表 3つの目の概念

	虫の目	鳥の目	魚の目
視点	細部を見る、複眼	全体を俯瞰する	動き、変化を見る
得る情報	現場情報	大きな流れ	底流、トレンド
思考の方向性	課題解決、方法を探る	戦略を考える	時代の先を読む

資料 筆者作成

るのではないかな。

3 食肉と飼料穀物の需給

「鳥の目」で世界的な食肉・乳製品需給、輸出入の動きを眺めると、ブラジルや中国・アジア諸国の経済発展に伴う需要増加の一方、鳥インフルエンザ、豚のPED(流行性下痢)などの病気や飼料価格が関連して、食肉の長期的な市況上昇が続いている。人口増加と経済発展に伴う食肉消費の増加、中国の食肉・乳製品の輸入動向、環境問題による制約など、環境変化を見ていく必要がある。

家畜飼料の主原料であるトウモロコシの市況は、米国バイオエタノール政策・新興国の需要増加等による2008年の市況高騰、11～12年の天候不順による価格ピーク後は、豊作傾向もあって落ち着いてきた。米国農務省による世界の17/18年度期末在庫率見通しは、18.3%と適正水準であり需給逼迫懸念は後退している。中国の在庫の影響もあるが、豊富な飼料原料によって畜産生産がどの程度増えるのか注目される。

4 欧米からの畜産トレンド

「魚の目」で欧米から押し寄せている畜産トレンドを探ると、ゲノム関連技術の開発を背景に、ゲノム情報を活用した繁殖成績・産肉効率などの家畜改良が、急激に進み始めている。海外産種畜の導入が広がる一方で、畜産

業を支える基盤である国産種畜の改良・確保をどのように取り組むのか課題となっている。

薬剤耐性菌に関する議論も広がっている。公衆衛生も家畜衛生も一つとの考えから、生産現場での抗生物質の慎重使用による耐性菌の発現抑制や、代替薬剤の開発が求められている。今後、生産者には薬剤使用の一層の削減と、高い衛生水準を支える生産システムの導入が広がるのではないかな。

EUでは持続可能(サステイナブル)な畜産を推進しており、畜産の糞尿処理は環境保護に伴う窒素・リンの排出制限との両立が求められている。今年、オランダでは家畜糞尿由来のリンによる農地への負荷を減らすために、乳牛16万頭削減を決定している。

このようなトレンドは、どのような形で日本へ波及していくのか注目される。日本の畜産の方向性を見極めながら取捨選択すべきだ。

本誌7月号の酪農特集(食農リサーチ)では、生産者・設備・需給に光をあてた。虫の目で生産者の取組み、魚の目で設備導入のトレンド、鳥の目で乳製品の需給問題を取り上げてみた。

今後も、同様な視点を持って、耕種を含む各業種に光をあて、現地ルポやレポートを皆様に提供していきたい。

(きたはら かつひこ)